

学会誌「噴流工学」投稿規定

日本ウォータージェット学会会誌部会
噴流工学編集委員会

1. 総 則

- 1.1 本誌は噴流に関連した諸分野における価値ある研究・技術報告と、会員に有用な総説・展望、技術ハイライト、海外情報等の諸情報を掲載する。
- 1.2 投稿資格は原則として本会員に限るが、会員の推薦がある場合この限りではない。また、筆頭著者は原則として会員に限る。
- 1.3 本誌に掲載された記事の著作権は日本ウォータージェット学会に属する。また、掲載された記事の内容については、著者が責任を負うものとする。

2. 原稿の種別

2.1 論文

次の2種類とし、投稿原稿が原著で他誌に未発表のものに限る。

2.1.1 研究論文（刷り上がり8ページ以内）

独創的・創造的な研究であり、価値ある結論あるいは事実を含むもの（学問的体系化への寄与）。

2.1.2 技術論文（刷り上がり8ページ以内）

その内容が独創的であり、かつ実用に役立つ価値あるデータ、新しい技術、現象あるいは考え方を含むもの（実用性、発展性）。

2.1.3 審査希望分野

希望する場合は、投稿論文が審査を受ける分野を「流体力学（物理、機械、材料加工など）」、「土木・建築（基礎、応用（施工）、意匠など）」、「環境・安全（化学、施工関連、資源開発など）」、「福祉・医療」および「その他」（上記4分野に該当しない分野）の中から希望することができる。なお、希望分野は複数も可とする。

2.2 一般記事A

2.2.1 総説・展望（刷り上がり12ページ以内）

噴流工学の基礎および応用に関してすでに発表された幾つかの研究成果や情報などに基づいて執筆者の意見や将来への展望などをまじえて総合的に説明したもの。

2.2.2 技術ハイライト（刷り上がり6ページ以内）

工場現場などにおける経験や試験・調査結果または設計・操作上の資料、研究報告としてはまとまりにくい有用なデータや結果を含む資料、または既発表の論文を資料的に要約したもの。

2.3 一般記事B

2.3.1 論壇（刷り上がり4ページ以内）

世界的視点から技術・研究全般にわたって論じたもの。

2.3.2 R & D（刷り上がり4ページ以内）

研究者から見た「R&D Management」を主に論じたものおよび「R&D」Management情報を扱ったもの。

2.3.3 海外情報（刷り上がり4ページ以内）

海外の研究・技術動向に関するもの。

2.3.4 その他（刷り上がり4ページ以内）

学会報告，部会活動報告，国際会議の報告・お知らせ等の会員に知らせることが有益であると思われる記事。

3. 投 稿

3.1 原稿は本投稿規定ならびに投稿の手引きに従い，必ずワープロを用いて作成する。原稿はテンプレート等を用いて作成したカメラレディ原稿を原則とする。

3.2 原稿は投稿用表紙を添え，事務局まで電子メールにて提出する。郵送で提出する場合は，事務局まで3部提出する。鮮明であれば3部ともコピー原稿でもよいが，写真などコピーで不鮮明なものは，少なくとも1部はコピーでないものを提出する。

3.3 原稿は噴流工学編集委員会あてに送付する。本会着信日をもって当該原稿の受付日とする。

4. 審 査

4.1 投稿原稿は審査員によって審査され，その採否は原稿の種別も含めて編集委員会が決定する。

4.2 編集委員会は投稿原稿について訂正を求めることができる。訂正を求められた原稿は速やかに再提出する。編集委員会が求めた期限内に提出されず，何の連絡もない場合には撤回したものとみなす。

5. 著者校正

著者校正は原則として1回行う。この時点では印刷上の誤り以外の字句の修正，あるいは原稿になかった字句の挿入は原則として認めない。

6. プライオリティ

論文のプライオリティの発効日は，原稿受付日とし，これを会誌に明記する。

7. その他

7.1 投稿は和文または英文に限る。

7.2 会誌発行後，著者が正誤訂正を申し出た場合，編集委員会がそれを適当と認めたものについては掲載する。

7.3 優秀な論文には学会賞を授与する。

7.4 会誌に掲載した論文については，筆頭著者が会員である場合は，論文掲載料として6ページまで1万円，以上1ページ超過ごとに5千円を支払う。筆頭著者が会員でない場合は，6ページまで2万円，以上1ページ超過ごとに1万円を支払う。原稿1編当たりの長さは，原則として別表2に定める刷り上がり最大ページ数以下でなければならない。ただし，編集委員長が認めるときはこの限りでない。

7.5 会誌に掲載した研究論文，一般記事については，その抜き刷りを有償で著者に頒布するものとする。料金は別表3「抜き刷り料金表」に定める。

別表1 原稿種別による書式一覧

原稿種別	英文要旨	和文要旨	キーワード	アプリケーション キーワード	図・表の題名 と説明文
論文 (研究論文, 技術論文) 一般記事A (総説・展望, 技術ハイライト)	要	要	要	要	英語
一般記事B (論壇, R&D, 海外情報, その他)	不要	不要	不要	不要	日本語

別表2 原稿種別による原稿枚数一覧

原稿種別	原稿枚数 の目安	刷り上がり 最大ページ数	英文要旨	和文要旨
論文 (研究論文, 技術論文)	原稿13枚 図表6枚	8	300語以内	300字以内
一般記事 A	(総説・展望) 原稿22枚 図表6枚	12	300語以内	300字以内
	(技術ハイライト) 原稿10枚 図表4枚	6		
一般記事B (論壇, R&D, 海外情報 その他)	原稿8枚	4	—	—

原稿枚数は、A4用紙に約1300字印刷したものを基準とする。

別表3 抜き刷り料金表

部数	頁	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
50		6000	7200	8400	9600	10800	12000	13200	14400	15600	16800	18000	19200
100		7200	8640	10080	11520	12960	14400	15840	17280	18720	20160	21600	23040
150		7700	9260	10820	12380	14040	15600	17160	18720	20280	21840	23400	24960
200		8400	10080	11760	13440	15120	16800	18480	20160	21840	23520	25200	26880
250		9000	10800	12600	14400	16200	18000	19800	21600	23400	25200	27000	28800
300		9600	11520	13440	15360	17280	19200	21120	23040	24960	26880	28800	30720
PDF版		7200	8640	10080	11520	12960	14400	15840	17280	18720	20160	21600	23040

荷造梱包料および消費税は別途加算されます。カラーページを含む場合の料金は別途相談とする。

学会誌「噴流工学」投稿の手引き

日本ウォータージェット学会会誌部会
噴流工学編集委員会

1. 一般的注意事項

1.1 原稿の作成

原稿の作成に際しては、ワードプロセッサ・MS-Word (MAC版, MS-WINDOWS版)の利用が望ましい。原稿はカメラレディ原稿を原則とする。なお、原稿作成用のテンプレートファイルを下記学会ウェブサイトより入手することができる。

<http://www.wdc-jp.com/wjtsj/publication.html>

1.2 原稿の提出部数

原稿は投稿用表紙を添え、事務局まで電子メールにて提出する。

郵送で提出する場合は、事務局まで3部提出する。鮮明であれば3部ともコピー原稿でもよいが、写真などコピーでは不鮮明なものは、少なくとも1部はコピーでないものを提出する。印刷された用紙の右上あるいは下部中央にページ番号を記載すること。

1.3 電子データの提出

原稿を郵送で提出する場合、作成した原稿の電子データを、CD-Rなどのディスクに保存して提出する。また、文書はMS-Word、一太郎形式で保存すること。提出したメディアは原則として返却しない。

1.4 使用言語および枚数

英語または日本語で原稿を作成し、刷り上がり規定枚数を超えないこと。以上の枚数には図表および著者略歴のスペースも含むので留意すること。なお、刷り上がりの規定枚数は投稿規定を参照すること。

1.5 単位系

単位系は国際単位系SIを使用すること。必要に応じて従来単位を使用する。ただし、SI単位系以外の単位が記載された図表を他から転載・引用する場合に限り、例外的に他の単位系の使用を認める。

1.6 キーワード

キーワードは英文で5語程度とすること。複合語の場合は原則として1語が3単語以内とし、最後の単語は名詞形の単数にすること。各単語(複合語の場合の各単語も)の最初の文字は大文字、他は小文字で書くこと。具体的な意味ある語で、できるだけ狭義の名詞形を選ぶこと。元素、化合物等は化学記号でなく、フルスペリングで示すこと。語の最初に数字を用いないこと。冠詞、前置詞は含めないこと。省略形はその分野で広く通用しているものに限る(新たに作った略語は不可)。

1.7 アプリケーションキーワード

上記のキーワードの他に、企業が抱えている技術問題を解決するために役立つキーワードをアプリケーションキーワードとして論文に記載する。例えば、高分子粒径の不均一、洗浄におけるコンタミなど具体的な問題がこれに該当する。「噴流工学」投稿用表紙の該当欄に和文にて記入すること。

1.8 著者略歴・写真の掲載

各記事の執筆者の略歴と写真を本文最後にまとめて掲載する。写真は白黒、背景のないものが好ましい。

1.9 原稿送付先および問い合わせ先

原稿は下記の噴流工学編集室宛に電子メールにて送付すること。

〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-41-24 東池袋センタービル2F

一般社団法人日本ウォータージェット学会 噴流工学編集室

TEL 03-5911-8671 FAX 03-3971-1214 E-mail: waterjet@npc-tyo.com

2. 原稿の構成に関する注意事項

2.1 投稿用表紙

所定の「投稿用表紙」に必要事項を記入し最初の投稿時に添付する。「投稿用表紙」は会誌「噴流工学」の巻末に綴じ込んであるので、これをコピーして使用するか、学会ウェブページよりダウンロードして使用すること。また会誌が手元にない場合には、「投稿用表紙」は上記の「噴流工学編集室」に請求すれば送付される。

2.2 表題・副題

表題は、内容を的確に表したものであり、冗長に過ぎないように注意して選択し、必要に応じて副題をつけること。日本語原稿にも英文表題をつけること。英文表題には、略号、記号、元素記号を用いないこと。

2.3 英文要旨・和文要旨

論文、一般記事Aについては、「投稿規定」別表1の通り、英文要旨ならびに和文要旨を添付すること。ただし英文原稿においては可能なかぎり和文要旨を添付することとする。

2.4 本文

2.4.1 見出し

見出しはポイント・システムとし、大見出し1., 2., …, 中見出し1.1, 1.2, …, 小見出し1.1.1, 1.1.2, …に、それ以降は(1), (2), …, (A), (B), …などで区別すること。

2.4.2 Nomenclature (記号表)

「投稿規定」の原稿の種別の「論文」「一般記事A」に関しては、原則としてNomenclatureをつけること。Nomenclatureは、本文の末尾、参考文献(References)の前に一括して記載すること。日本語原稿でもNomenclatureの説明文は英語で書くこと。拾い出す記号は、一般的に使われ誤解の生ずる恐れのないものは省略し、特に読者に注意を喚起したいものに限定して良い。

並べ方はアルファベットの大文字、小文字の順とし、ギリシャ文字はその後に一括すること。単位のあるものはSI単位系を書くこと。説明は簡単な式の形で書いても良い。

(例)

A_c	$= A/c^2$	[-]
K	constant	[m]
v_p	particle velocity	[m/s]
μ	viscosity	[Pa · s]

2.4.3 数式

式番号は各式の右端に(1), (2), …のように通し番号をつけ、式の性質に応じて複数の式に(1-a), (1-b)のようにつけることができる。文章中の式は必ず1行とする。

$$\frac{\partial \rho}{\partial t} + \nabla \cdot (\rho \mathbf{u}) = 0 \quad (1)$$

また、文中では「Eq.(1)に示したように・・・」のように引用すること。

2.4.4 記号

量記号、単位記号および化学記号はJIS Z 8202に、数学記号はJIS Z 8201にできるだけ準拠すること。要点は次のとおりである。

- ・量記号はイタリック体
- ・無次元パラメーターおよび基本乗数はイタリック体
- ・単位記号は直立体
- ・記号に続く単位はカッコ()に入れ、数値に続く単位はカッコに入れないこと

- ・化学記号は直立体
- ・数値は直立体
- ・数学記号で定数，演算記号は原則として直立体，変数記号はイタリック体
- ・ベクトルはイタリックボールド体
- ・ギリシャ文字は JIS コード 2621 ～ 2658 の中から選んで入力すること。

2.4.5 専門用語

専門用語はできるだけ“ウォータージェット技術辞典”（丸善株式会社，1993）に従うことが望ましい。

2.4.6 脚注

本文の字句に注を付す場合，その字句の右肩に*，**，***等の記号をつけ，脚注を原稿末尾にまとめて書くこと。

2.4.7 略語

本文中で英字の略語を用いる場合には，最初の使用の直後にカッコ（ ）付きで原語を示すこと。

2.4.8 文献の引用

(1) 日本語原稿の場合

本文中で引用した順番に^{1),2),3)}，・・・と上付き文字を用いて通し番号をつける。

(例)

田中ら¹⁾は同様な方法を開発しているが
佐藤らはすでに報告している手法により^{3,4)}
この他にも様々な方法³⁻⁹⁾が開発されているが

引用した文献は，本文の末尾に参考文献として番号順に一括する。参考文献の記載の順番は以下の通りである。

[雑誌] 著者名(連名者)，論文の標題，雑誌名，巻数，号数，ページ(西暦発行年)。

[単行本] 著(編)者名，書籍名，発行所，発行地(西暦発行年)。

(例)

村上 孝，旋回流に関する研究，噴流工学，Vol.10, No.1, pp.78-92 (1993)。

日本機械学会編，機械工学便覧，日本機械学会，東京(1987)。

(2) 英文原稿

本文中には通し番号をつけずに，Weber (1992) のように著者名の次に西暦発行年を書いて引用し，第一著者の Family Name のアルファベット順に並べて原稿の末尾に References として一括する。

References の記載の順番は以下の通りである。

[雑誌] 著者名，西暦発行年，雑誌名，巻数，号数，ページ。

[単行本] 著者名，西暦発行年，標題，発行所，発行地。

(例)

Kwon, O.K., and Pletcher, G.H., 1983, Prediction of the Incompressible Flow over a Rearward-Facing Step, ASME Journal of Fluid Engineering, Vol.112, No.29, pp.402-407.

Tung, C.Y., 1983, Evaporative Heat Transfer in the Contact Line of a Mixture, Rensselaer Polytechnic Institute, NY.

2.4.9 Appendix

本文中の説明を末尾に別記する Appendix は，文中では前後のつながりを中断したり，煩雑になるなど，やむを得ない場合のみに限り，参考文献の後につけることができる。

Appendix 中で使用する図，式番号は別に独立して **Fig.A-1**, Eq.(A-2) のように書くこと。

3. 図・表・写真

3.1 標 題

論文または一般記事Aについては、図・表の標題，およびそれらに書き込まれる説明文はすべて英語とすること。一般記事Bについては、統一されていれば英語でも日本語でもよい。写真は図とみなし，同じ取り扱いをする。

3.2 通し番号

標題，説明文が英語である場合には，図は**Fig.1, Fig.2**・・・，表は**Table 1, Table 2**・・・のように通し番号をつけ，標題，説明文が日本語である場合には，図は**図1, 図2**・・・，表は**表1, 表2**・・・のように通し番号をつけること。本文中でもこれらを使用すること。

3.3 単段・二段構成

図および表は単段または二段構成とすることが可能である。単段構成の場合には図表の横幅が12 cm以内に，また二段構成の場合には図表の横幅が26 cm以内に収まるように図および表を作成すること。また図表内の文字の書体は英文の場合にはゴシック体（例えばHelvetica）を用い，日本語の場合にはゴシック体を用いること。文字の大きさは14ポイント以上，線の太さは0.5 mm以上にすること。

学会誌「噴流工学」投稿用表紙

原稿提出日	年 月 日	受付番号 (学会記入)	No.
		原稿受付日 (学会記入)	年 月 日

原稿種別	論文 (研究論文 技術論文) 一般記事A (総説・展望 技術ハイライト) 一般記事B (論壇 R&D 海外情報 その他) (該当するものを○で囲んで下さい)
------	--

和文表題	主題	
	副題	

英文表題	主題	
	副題	

著者名	会員番号	氏名 (和文)	氏名 (ローマ字)	所属機関 (和文)	所属機関 (英文)	

キーワード (英文)	
---------------	--

アプリケーション キーワード (和文)	企業がかかえている技術問題解決に役立つキーワード 例) 高分子粒子の不均一、洗浄におけるコンタミ等
---------------------------	---

連絡先	氏名 (和文)		所属機関 (和文)	
	(ローマ字)		(英文)	
	住所 (和文)	〒□□□ - □□□□		
	(英文)			
	TEL	内線 ()		FAX
	e-mail			

原稿枚数	本文 枚、 図 枚、 表 枚、 その他 枚	総計 枚
------	-----------------------	------

既発表の有無	有・無 発表の方法 ()
--------	---------------